書評

[評者]
若林チヒロ
埼玉県立大学准教授・健康開発学科

基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆

中村好一 著

●A5　頁240　2013年
定価2,940円(本体2,800円＋税5%)
[ISBN978-4-260-01797-8]医学書院刊

疫学研究の方法を解説した，「楽しい研究」シリーズ第一弾『基礎から学ぶ楽しい疫学』は，「黄色い本」として辞書代わりに活用している人も多い．第二弾として今回出版された「青い本」では，研究の発表方法を一から学べるようになっており，やはり長く使い続けることになるであろう．疫学や公衆衛生学をリードしてきた研究者であり，医学生や保健医療者の研究指導をしてきた教育者でもある著者が，長年蓄積してきた学会発表や論文執筆の方法を惜しげもなく伝授してくれている．さらに，学術誌の編集委員長を務めてきた経験から，査読者の視点や意識まで解説してくれている．2年間に及ぶ連載をまとめただけあって，ノウハウが詰まった濃い一冊である．

この本はコメディカルや大学院生など研究の初学者向けに執筆した，と著者は書いている．発表する学会の選び方や抄録の書き方，口演での話し方からポスター用紙の種類まで，至れり尽くせりで効果的な学会発表のノウハウが示されており，確かに初学者が「基礎から」学べるようになっている．しかしこの本は，キャリアのある臨床家や研究者が，よりインパクトのある発表をしたり，より採択されやすい論文を執筆したりするためにも，十分に適している．「基礎から，かなり高度なレベルまで」学べるようになっているのである．

特に必読なのは，論文執筆の項．「論文の緒言で書くべきこと，書くべきではないことは何か？」「諸言と考察の内容はどのように書き分けるか？」「読者をひきつける結果の書き方は？」など，事例を示しながら解説してくれている．さらに，著者は『Journal of Epidemiology』(日本疫学会刊行)の編集委員長を務めた経験から，印象のよいカバーレターや査読者への返信の文案を事例で示し，採択されやすい論文について懇切丁寧に教えてくれている．掲載不能，いわゆるボツ原稿を受け取っても，「めげずに元気を出して，別の雑誌に投稿する」ための，気持ちの立て直し方まで書かれている．

職人技とも言えるノウハウをここまでオープンにしてくれるのは，著者がこの本を書いたモチベーションによるのだろう．医師やコメディカルは経験知を共有することで，より良い技術を開発したり新たなパラダイムを展開したりできるが，特に保健領域では，論文が公表されにくいため経験知が蓄積されておらず，各地で同じ問題に直面している場合が多いという．「対象が異なれば公表する意味がある」．臆せずにそれぞれのフィールドでの経験知を論文化してほしいという著者の熱意が，この本での細やかな配慮につながっている．

「黄色い本」にはコラムファンが多いとのこと．青い本書でも，満載のコラムが面白い．本文と合わせて読み進めると，一歩踏み込んで理解が深まるようにできている．仲間や指導者と雑談をして研究をブラッシュアップしているような，そんなうまみのあるコラムである．

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2013